



一橋大学
大学院国際・公共政策教育部
(国際・公共政策大学院)
《専門職学位課程》

2023(令和5)年度 入学試験説明会

School of International and Public Policy,
Hitotsubashi University

一橋大学と国際・公共政策大学院(IPP)の歴史

森有礼が、東京都内に商法講習所として開校

一ツ橋に移転(現在の千代田キャンパス)

東京高等商業学校に改称、4年制を開設

東京商科大学に昇格

関東大震災により、図書館を除く校舎が倒壊

東京都心から約25キロ西の国立に移転

一橋大学に改称

国際・公共政策大学院設立

1875年
(明治8年)

1885年

1902年

1920年
1923年

1930年

1949年

2005年

一橋大学国際・公共政策大学院の特色

1. 定員55名、専任教員20名による**少人数教育**
2. **政府・民間との連携**に基づく教育・研究の充実
3. 新卒・社会人・留学生が混在する**多様で国際色豊かな**学生構成
4. 美しい自然と落ち着きのあるキャンパス ...



国際・公共政策大学院の理念

＜専門職大学院としての4つの基本理念＞

専門性

先端研究の基礎に立つ
高度専門教育

横断的・複合的

横断的分析による
複合的視点の育成

多角性・実践性

政策分析における
多角性と実践性の重視

アジアそして世界へ

アジア・太平洋地域の拠
点として世界に発信

⇒政策に関する真のプロフェッショナルの育成

国際・公共政策大学院の構成

専攻	国際・公共政策専攻			
コース	国際・行政コース		公共経済コース	
プログラム	公共法政	グローバル・ガバナンス	公共経済	アジア公共政策
修了所要単位	44単位		44単位	
取得できる学位	国際・行政修士(専門職) Master of International and Administrative Policy		公共経済修士(専門職) Master of Public Policy (Public Economics)	
入学定員	修業年限	定員と対象		定員と対象
	2年課程	30名	一般、社会人、留学生	15名 社会人
	1年課程	10名	社会人	

カリキュラム

インターンシップ

ワークショップ

コンサルティング
プロジェクト

＜プロフェッショナル・トレーニング＞
表現力やコミュニケーション能力の向上をめざす

事例研究：事例を分析する目を養う

応用科目：専門性の高い問題に取り組む

コア科目：政策の基本的な問題に取り組む

基礎科目：基礎となる考え方を学ぶ

＜アカデミック・トレーニング＞
理論的・概念的な枠組みの修得・応用を目指す

4つのプログラムのご紹介

公共法政

グローバル・ガバナンス

公共経済

アジア公共政策

公共法政 プログラム

Public Law Program

公共法政プログラムが目指していること ...

公共法政プログラム

(1)プログラムの特色

目標:

- 公法、政治に関する深い理解に基づいて公共政策を分析・提言する能力を身につける。

特色:

- 必修科目が少ない。
- ニーズに即した多様な講義科目が提供されている。
Ex. 法科大学院との合併講義科目
- ワークショップ、ゼミでの指導により、研究論文の作成能力が養われる。

活躍が期待される職場:

国、地方公共団体、民間企業等。

公共法政プログラム (2) 2年コースの流れ

1年目春・夏学期

行政法基礎論
行政学Ⅰ・基礎
地方行政論Ⅰ
公共法政ワークショップⅠ
など



夏期集中
インターンシップ



1年目秋・冬学期

憲法政策
法と公共政策
行政学Ⅱ・応用
公共法政ワークショップⅡ
など

2年目春・夏学期

公共法政ワークショップⅢ
政策法務研究
租税論Ⅰ
など



夏期集中
インターンシップ



2年目秋・冬学期

公共法政ワークショップⅣ
立法学
租税論Ⅱ
など

履修の目安 44単位以上

- 1年目24単位以上 2年目20単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位には含まれない。

公共法政プログラム (3) 1年コースの流れ

春・夏学期

行政法基礎論
行政学Ⅰ・基礎
社会保障論Ⅰ
地方行政論Ⅰ
政策法務研究
租税論Ⅰ
公共法政ワークショップⅠ
1年コース特別ワークショップⅠ
特別研究指導
など



夏期集中
インターンシップ



秋・冬学期

憲法政策
法と公共政策
行政学Ⅱ・応用
行政法特論
立法学
租税論Ⅱ
公共法政ワークショップⅡ
1年コース特別ワークショップⅡ
特別研究指導
など

履修の目安 44単位以上

- 春・夏学期22単位以上、秋・冬学期22単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位に含まれる。

グローバル・ガバナンス プログラム

Global Governance Program

グローバル・ガバナンスとは何か？

グローバル・ガバナンス プログラム

(1) プログラムの特色

- 目標：
 - 国際関係論、国際法、国際関係史に関する専門的な知識をもとに、国際社会における諸問題に対して、具体的な政策を提言する能力を身につけることを目指す。
- 特色
 - 必修科目が比較的少なく、各人の興味に基づき自由に科目選択ができる。
 - 英語での科目が豊富に提供されている。
 - GGワークショップにおけるきめ細かな指導により、各人が選んだテーマに関する論文の作成能力が養われる。
- 活躍が期待される職場：
 - 官公庁、国際機関、国際NGO、シンクタンク等の民間企業。

グローバル・ガバナンス プログラム

(2) 2年コースの流れ

1年目春・夏学期
 国際政治学基礎論
 政策分析の技法
 国際法基礎論
 US Foreign Policy
 比較政治外交論
 など

2年目春・夏学期
 日本外交政策論
 EU論
 GGワークショップ I
 など



夏期集中
 インターンシップ
 SDGs—理論と実践



夏期集中
 インターンシップ
 Human Security II



1年目秋・冬学期
 International Security Policy
 Japan's Foreign Policy Making
 地球環境と開発金融
 Research Methods in
 International Relations
 など

2年目秋・冬学期
 Community Interests and
 International Law
 市民社会論
 GGワークショップ II
 など

履修の目安 44単位以上

- 1年目24単位以上 2年目20単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位には含まれない。

グローバル・ガバナンス プログラム

(3) 1年コースの流れ

春・夏学期

国際政治学基礎論
政策分析の技法
国際法基礎論
US Foreign Policy
比較政治外交論
日本外交政策論
EU論
GGワークショップ I
など

⇒ 夏期集中
インターンシップ ⇒

秋・冬学期

International Security Policy
Japan's Foreign Policy Making
地球環境と開発金融
Research Methods in
International Relations
Community Interests and
International Law
市民社会論
GGワークショップ II
など

履修の目安 44単位以上

- 春・夏学期22単位以上 秋・冬学期22単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位には含まれる。

公共経済 プログラム

Public Economics Program

公共経済プログラムが目指していること ...

公共経済プログラム

(1)プログラムの特色

- ・ 目標：
 - － 経済学的に考え、分析する能力を身につけ、政策分析・政策提案を行えるようになる。
- ・ 特色
 - － 経済学を(初学者でも)基礎から徹底的に学べる。
 - － 必修科目が多い(大変)。
 - － 2年コースの学生は、コンサルティング・プロジェクト(必修)を通じて、実践的な政策分析・提案の能力を磨く。
 - － 1年コースの学生は、1年コース特別ワークショップ(必修)を通じて、問題意識を深めて、政策分析・提案につなげる。
- ・ 活躍が期待される職場
 - － シンクタンク、省庁、自治体、民間企業など

公共経済プログラム (2) 2年コースの流れ

(*のついた科目は必修科目)

1年目春・夏学期

*ミクロ経済分析(4単位)
*マクロ経済分析(4単位)
*計量経済分析(4単位)
*公共経済分析 I
経済学基礎論
経済統計分析入門 など



夏期集中

プロジェクト評価
応用計量経済分析 I
など



1年目秋・冬学期

*公共経済分析 II
*コンサルティング・プロジェクト指導 I
応用計量経済分析 II
租税論 I, II
公共政策セミナー I など

コンサルティング・プロジェクト

2年目春・夏学期

*コンサルティング・プロジェクト指導 II
社会保障論 I
公共政策セミナー III など



夏期集中

医療と保健
など



2年目秋・冬学期

*公共経済ワークショップ
社会保障論 II
公共政策セミナー II など

コンサルティング・プロジェクト...完成

リサーチ・ペーパー(or研究論文)執筆

履修の目安 44単位以上

- 1年目24単位以上 2年目20単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位には含まれない。

公共経済プログラム (3) 1年コースの流れ

(*のついた科目は必修科目)

春・夏学期

*経済学基礎論 I
*経済統計分析入門
*ミクロ経済分析
*マクロ経済分析
*公共経済分析 I
社会保障論
医療保険政策論
公共政策セミナー I, III
*1年コース特別ワーク
ショップI など

夏期集中

⇒ プロジェクト評価
⇒ 応用計量経済分析 I
など

秋・冬学期

*経済学基礎論 II
*公共経済分析 II
租税論 I, II
地方財政論
法と経済学
金融論
医療経済政策論
公共政策セミナー II, IV
*1年コース特別ワーク
ショップII など

履修の目安 44単位以上

- 夏学期22単位以上 冬学期22単位以上。
- 研究論文(特別研究指導)は修了要件の44単位に含まれる。

アジア公共政策 プログラム

Asian Public Policy Program

アジア公共政策プログラムが目指していること ...



Asian Public Policy Program

(アジア公共政策プログラム) (1)

A two-year Master's Program taught entirely in English

- **Focus:** Economic theory and policy for policymakers
- **Target:** Professionals from Asia (but Japanese who want to study economics in English to become international public servants are welcome, too)
- **Mission:** Train professionals
Share experience and views
Develop network
- **Campus:** Kunitachi Campus & Chiyoda Campus
(Near Takebashi Station)
- **Academic Year:** Starts in September



APPP (2) Course Description

A dedicated course structured for APPP students:

- Required Courses
 - Macroeconomics, Microeconomics, Econometrics, Economics of Public Sector
- Elective Courses
 - Fiscal Policy, Monetary and Financial Policy, Public Sector Policy
- Workshop on Current Topics (series of seminars on contemporary issues by policymakers, academics, etc.)
- Intensive courses taught by visiting lecturers from renowned schools (Harvard Kennedy School, Lee Kuan Yew School of Public Policy, Australian National University, Columbia School of International and Public Affairs).
- English Thesis Writing Tutorials
- Seminar Work (small class of around 8 students with an academic advisor)
- Master's Thesis (required)

APPP (3) Main Features

- Faculty members with rich policy-making and -implementation experiences (MoF, CAO, BoJ, IMF, World Bank, BIS, AMRO).
- A strong theoretical basis is combined with real-world practice.
- The city-center campus attracts a wide range of experts and practitioners as lecturers.
- Strong alumni network in Asia
- Kill two birds with one stone (economics and English) !
- Ranked high in international rankings.



交換留学について

Studying Abroad

学生交流協定に基づく交換留学の制度

- (1) ボッコーニ大学(イタリア)半年1名(全学協定)
公共政策、公共経済関係の英語での諸科目
 - (2) マーストリヒト大学(オランダ)半年1名(部局間協定)
EU Studies に関する英語での諸科目
 - (3) 中国人民大学(中国)半年1名(部局間協定)
公共政策の英語での諸科目
 - (4) ザンクトガレン大学(スイス)半年2名(部局間協定)
公共経済、政治学等の社会科学に関する英語での諸科目
 - (5) ケンブリッジ大学AMES(イギリス)半年1名(全学協定:IPPの留学希望者優先制度あり)
アジア・中東地域の社会科学に関する英語での諸科目
 - (6) パリ第1パンテオンソルボンヌ大学(フランス)半年2名(部局間協定, 経済学研究科と合同)
ソルボンヌ経済学院で提供される英語での経済学関連科目
 - (7) バルセロナ国際研究所(スペイン)半年2名(部局間協定)
国際関係や公共政策に関する英語での大学院教育の諸科目
 - (8) ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)年間1~2名(部局間協定, 法学研究科と合同)
EU研究、国際関係の英語での諸科目 =ダブルディグリー協定=
- 授業料相互不徴収
 - 語学要件: おおむねTOEFL iBT 80~100(留学先によって異なる)
 - 単位互換: 認定されれば、最大16単位まで可能
 - 奨学金: 25万円を限度に一橋大学基金から支給する制度あり

入試について

Entrance Examination

2023年度入学試験スケジュール(年2回(秋・春)開催)

4月入学。授業科目は、一部科目を除き、国立キャンパスにて、日本語で、かつ昼間に行われます。

● 秋季

募集区分	募集プログラム	試験形態	募集人員
一般選考	公共法政(PL) グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	PL: 書類選考(第1次) 小論文・面接試験(第2次)	30名程度 (うち社会人1年 コース10名)
		GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	
社会人特別選考	公共法政(PL) グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	PL: 書類選考(第1次) 小論文・面接試験(第2次)	
		GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	
外国人留学生特別選考	グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	

2023年度入学試験スケジュール(年2回(秋・春)開催)

4月入学。授業科目は、一部科目を除き、国立キャンパスにて、日本語で、かつ昼間に行われます。

● 春季

募集区分	募集プログラム	試験形態	募集人員
一般選考	公共法政(PL) グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	PL: 書類選考(第1次) 小論文・面接試験(第2次)	30名程度 (うち社会人1年 コース10名)
		GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	
社会人特別選考	公共法政(PL) グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	PL: 書類選考(第1次) 小論文・面接試験(第2次)	
		GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	
外国人留学生特別選考	グローバル・ガバナンス(GG) 公共経済(PE)	GG・PE: 書類選考(第1次) 面接試験(第2次)	

春季募集について、海外在住の外国籍の方は外国人留学生特別選考にご出願ください。

入学試験（秋季：一般選考）

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンスプログラム、公共経済プログラム共通

● 選考方法

第1次試験（書類審査）：

研究計画書、成績表、TOEFL・TOEIC・IELTSのスコア、推薦書、エッセイ（グローバル・ガバナンスプログラムのみ）、その他参考資料等を審査

第2次試験（面接（共通）＋小論文（公共法政プログラムのみ））：

第1次試験合格者を対象に研究計画書等に基づく面接試験を行う（公共法政プログラムでは、面接試験に加えて小論文を行う）

* グローバル・ガバナンスプログラムの海外在住の受験者、公共経済プログラムのすべての受験者の面接試験（第2次試験）はオンラインで実施されます。

入学試験（社会人特別選考）

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンスプログラム、公共経済プログラム共通

●「社会人」の定義

出願時点において、企業・官公庁等において2年以上の実務経験を有する者

● 1年コースと2年コース

修了所要単位数はどちらも44単位。1年コースは基礎学力があり、在学中に仕事や就職活動等の予定がなく、勉学中心の生活ができる環境にある人向き

● 選考方法

第1次選考（書類審査）：

研究計画書、実務上の経験および能力に関する報告書、推薦書（グローバル・ガバナンスプログラムのみ）、TOEFL・TOEIC・IELTS・検定試験等の参考資料を審査

第2次選考（面接（共通）＋小論文（公共法政プログラムのみ））：

第1次試験合格者を対象に研究計画書等に基づく面接試験を行う（公共法政プログラムでは、面接試験に加えて小論文を行う）

* グローバル・ガバナンスプログラムの海外在住の受験者、公共経済プログラムのすべての受験者の面接試験（第2次試験）はオンラインで実施されます。

入学試験（外国人留学生特別選考）

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンスプログラム、公共経済プログラム共通

●「外国人留学生」の定義

出願時点において、日本滞在期間が2年以下の者

● 選考方法

第1次試験（書類審査）:

研究計画書、TOEFL・TOEIC・IELTSのスコア、日本語能力試験等のスコア、推薦書（2通）、その他参考資料を審査

第2次試験（面接（共通））:

第1次試験合格者を対象に研究計画書等に基づく面接試験を行う

※公共法政プログラムの外国人留学生特別選考は春季のみ募集を行います。

* グローバル・ガバナンスプログラムと公共法政プログラム（春季のみ）の海外在住の受験者、および公共経済プログラムのすべての受験者の面接試験（第2次試験）はオンラインで実施されます。

入学試験（研究計画書の書き方：秋季入学試験）

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンスプログラム、公共経済プログラム共通

● 研究計画書について

以下の3点についてまとめる

- ① これまでの勉強の成果や実務経験
- ② 入学後の研究テーマ
- ③ 大学院での研究を、修了後のキャリアへどう生かすか

字数

<一般>

- ・公共法政, グローバル・ガバナンス: 3,000字程度
- ・公共経済: 6,000字程度

<社会人特別選考> 6,000字程度

<外国人留学生特別選考>

- ・公共経済: 日本語で 3,000字程度
- ・グローバル・ガバナンス: 日本語で 3,000字程度、または英語で 2,000 words 程度

秋季入学試験日程等

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンスプログラム、公共経済プログラム共通

●一般選抜

出願期間	8/3(水) -8/19(金)
第1次試験 (書類審査) 合格発表	9/8(木)
第2次試験(面接 [+小論文*])	9/15(木)
合格発表	9/26(月)

●社会人特別選考

出願期間	8/3(水) -8/19(金)
第1次試験 (書類審査) 合格発表	9/8(木)
第2次試験(面接 [+小論文*])	9/15(木)
合格発表	9/26(月)

●外国人留学生特別選考

出願期間	8/3(水) -8/19(金)
第1次試験 (書類審査) 合格発表	9/8(木)
第2次試験 (面接)	9/15(木)
合格発表	9/26(月)

*小論文試験は公共法政プログラムのみ実施

*小論文試験は公共法政プログラムのみ実施

募集人数： 一般選抜、社会人2年コース、外国人留学生特別選考を合わせて30人
社会人1年コース10人

出願方法： 日本国内からの発送：書留郵便/海外からの発送：EMS、DHL、FedEx等
により出願書類を提出

WEB出願

公共法政プログラム、グローバル・ガバナンスプログラム、公共経済プログラム共通

出願期間内に以下の①～③のすべてを行うことにより出願が完了します。WEB出願ページでの出願登録は、募集要項と「一橋大学大学院出願の流れ」を参照しながら行ってください。

- ① WEB出願ページでの出願登録
- ② 検定料の納入(検定料不要の場合を除く)
- ③ 出願書類の郵送(出願期間内必着)

※「一橋大学大学院出願の流れ」は一橋大学ホームページ(<https://www.hit-u.ac.jp/faculties/index.html>)に6月下旬頃に掲載予定です。

※WEB出願ページでの出願登録は、7月中旬頃より登録可能となります。

入学試験（アジア公共政策プログラム）

- 募集人数
15名
- 出願資格
主としてアジア諸国の官公庁・中央銀行での2年以上の勤務経験
- 出願期間
<http://www.ipp.hit-u.ac.jp/appp/> を参照のこと。
- 第1次試験（書類審査）
研究計画書、TOEFL/IELTS、推薦状、成績表に基づく審査
- 第1次試験合格発表（1次試験合格者のみに第2次試験日程を連絡）
2023年5月上旬予定
- 第2次試験（数学、英語の筆記テスト及び面接）
第1次合格発表後、適宜のタイミング
- 最終合格発表
2023年5月下旬～6月予定
（申請する奨学金、2次試験日程により異なる）

*アジア公共政策プログラム問合せ先：appp-admissions@ad.hit-u.ac.jp

*アジア公共政策プログラムは9月入学

主体的に学ぶ Epilogue

インターンシップの履修について

- I IPP授業科目「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」単位認定要件
- (1) 1週間(約40時間相当)以上の実習(1単位)、または2週間以上の実習(2単位)
 - (2) 実習レポート及び実習終了(修了)証明書等の提出
 - (3) 「IPPインターンシップ報告会」における成果発表
- II インターンシップ受入先について
- (1) 官庁や地方自治体等(官公庁等が募集、各自、又は、大学を通じて申し込む)
 - (2) 人事院主催公共政策大学院生インターンシップ
 - (3) 民間企業等(各企業等が募集、各自で申し込む)

<その他>

- ・インターンシップへの助成制度あり。

インターンシップ等を行なう際に必要となる費用(交通費、宿泊費他)の一部助成
(国内活動:上限5万円、海外活動:上限25万円)

※ただし、当該年度の大学予算の都合による。

医療経済プログラムについて

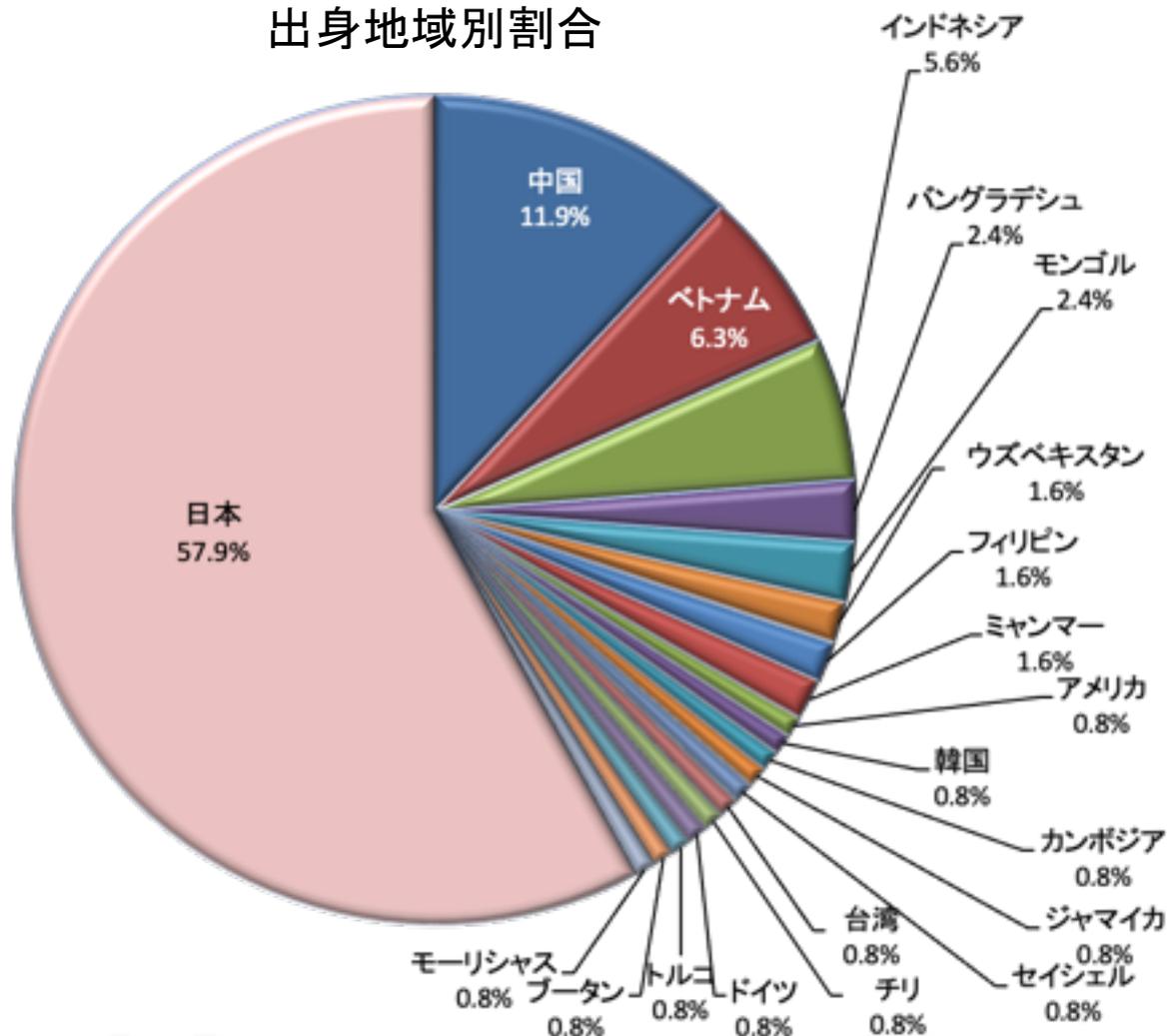
- 国際・公共政策大学院の学生は、一橋大学大学院の修士課程および専門職学位課程に在籍する学生を対象とする**医療経済プログラム**に参加することが可能です。
- 修了要件を満たした学生には、修了時にプログラム修了証が授与されます。
- 詳細は、プログラムを運営している一橋大学社会科学高等研究院の医療政策・経済研究センターのWeb サイトをご覧ください。
 - <http://health-economics.hias.hit-u.ac.jp/course/>
 - ➡ https://health-economics.hias.hit-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/04/health_economics_program_2022.pdf
 - “医療現場における課題解決や官公庁等における政策形成など、医療関連のプロフェッショナルを目指す学生、また、医療・介護機関や製薬企業、医療機器メーカー、官公庁、自治体など、医療や社会保障の現場で働く社会人学生の方の参加を期待しています。”



(参考) 在学生の出身国又は地域名 (2022年4月)

国名	学生数	割合
中国	15	11.9%
ベトナム	8	6.3%
インドネシア	7	5.6%
バングラデシュ	3	2.4%
モンゴル	3	2.4%
ウズベキスタン	2	1.6%
フィリピン	2	1.6%
ミャンマー	2	1.6%
アメリカ	1	0.8%
韓国	1	0.8%
カンボジア	1	0.8%
ジャマイカ	1	0.8%
セイシェル	1	0.8%
台湾	1	0.8%
チリ	1	0.8%
ドイツ	1	0.8%
トルコ	1	0.8%
ブータン	1	0.8%
モーリシャス	1	0.8%
日本	73	57.9%
合計	126	100.0%

出身地域別割合



外国人留学生割合 42.1%



理論立てて政策を考察し、実装への道筋を描く。 思考の基礎体力が身につきました

中学時代に、国家公務員として懸命に働いている父親の姿と国家公務員が批判に晒されるというギャップがどこからくるのかと感じたことが公務員に興味を持ったきっかけです。そして、公に尽くす国家公務員の仕事を勇ましく思いました。

法学部3年の頃、公務員試験に臨みましたが、面接試験で失敗してしまいました。「国と地方自治体のやるべきことの違いとは？」と質されて、何も答えることができなかつたのです。わからないながらも、自分なりの考えを述べるべきだったのでしょうが、そういったことにも考えが至りませんでした。自分に足りなかつた理論と実務のつながりについて理解を深め、そのうえで何のために公務員になるか。その答えを見つける

ためにIPPへの進学を決意しました。

入学前は個人個人で黙々と2年間学んでいくイメージを持っていましたが、実際は社会人や留学生など多様な仲間とカジュアルに学べる環境がありました。公務員の方から様々な話を聞いたことも有益でした。誰もが、正解のない問いに対して迷いながらも学びつつ取り組んでいることがわかり、学び続ける重要性に改めて気づきました。IPPでは、エビデンスを集めて政策を立案し、実装への道筋を描いていくというプロセスを繰り返しながら、思考の基礎体力が磨かれたと思います。

2020年に再度受験した公務員試験には、無事合格できました。課題を多角的かつ俯瞰的に捉えられたことが勝因だと思います。政策を自分の言葉で語る国家公務員を目指したいと思っています。

公共法政プログラム(PL)
一般・2019年度入学

木下 昂平さん

講義はもちろん学生仲間とのディスカッションを通じて 多くの刺激と発見がありました

学生時代をアメリカで過ごし、中学ではスコットランドに留学するなど、自分自身の国際的な背景を活かした仕事に就きたいと考えていました。そうした中で外交官の仕事に興味を持ち、大学では国際関係学を専攻しました。国際関係を学ぶ醍醐味は、社会科学を網羅する広範な領域のうえに、国家間だけでなく人レベルの交流が作用するなど、複雑化する現状に対して、いかに最適な解釈や解決策を提示していくかというところにあります。大学卒業を前に外交官という実務家だけでなく研究者への道もあると進路に迷い、さらに研鑽を積むとともにキャリアを考える時間がほしいとの考えに至り、IPPへの進学を決意しました。その中でグローバル・ガバナンスプログラムを選択したのは、理論に加え実務家の先生から学ぶことに魅力を感じたからです。

入学後に印象に残ったのは、一橋大学名誉教授で国際政治学者の大芝亮先生の論文にある「一橋大学は国際関係学の理論研究と歴史研究の距離が非常に近い」との一文です。アカデミアとして両者は相容れない傾向がありましたが、真に深い知見を得るには双方を融合して考察する必要がありますと学びました。その上でIPPの良さは、実務の視点が提供されていたことです。学生仲間にも官庁勤務の方がおり、ディスカッションを通じて大いに刺激を受けるとともに、自分のキャリアと向き合う良い機会になりました。IPP修了後は一橋大学大学院法学研究科国際関係専攻博士課程への進学を予定しています。



グローバル・ガバナンス・プログラム(GG)
一般・2019年度入学

守谷 優希さん

学術研究と実務の橋渡しについて学ぶ機会を得て、 途上国の教育開発の仕事に就く進路が見えました

子供の頃から教育問題に関心があり、将来は国際機関で途上国などの就学できない子供たちの支援に関わりたいと思っていました。

その目的を果たすために、大学は国際教養学部に進学し、そのまま大学院に進学しようとも考えましたが、一度社会人を経験しようとメガバンクに入行しました。外為専門職として5年間勤めた後、退職しIPPの公共経済プログラムに入学しました。

IPPは経済の初学者にも門戸を開放し基礎から学べることと、政策分析など実務家に必要な知識がバランスよく学べる点が魅力でした。

1年次に、計量経済分析などを含む経済学の基礎を徹底的に学んだ後、2年次はJICAでのコンサルティング・プロジェクトを通じて、途上国の

女子教育支援のための調査に関わることができました。その時は、先行研究の成果はたくさん残されているものの、知識や理論をどのように活用すればいいか判断することの難しさを知りました。研究と実務の橋渡しについて深く考えさせられる機会になりました。IPP修了後は、自分の知見を広げるために、イギリスの教育開発専門の大学院でもう1年学ぶことにしました。

イギリスで学んだ後は、UNESCOや世界銀行など途上国の教育開発に関わる仕事に就くことを目指しています。こうした進路が開けたのも、公共経済プログラムが提供するカリキュラムのおかげだと感じています。



公共経済プログラム(PE)
社会人2年コース・2019年度入学

中森 翔子さん

IMFなど最前線で働く方々のお話を伺う機会も得ることができ、とても充実した時間を過ごすことができます

私は元々途上国支援に関心があり、大学卒業後に2年間JICAの国際ボランティアとしてガーナの高校で教員をしていました。帰国後は公務員試験を受け、財務省の支分部局である税関に採用され、その2年後に本省の国際局に異動。係長への昇進を機に、公共政策を体系的に学びたいと思うようになりました。

そのような中で、APPPはアジア諸国から公的セクターの人々が集うと聞き、将来の人的ネットワークを築くことができるという期待もあって、入学を決意しました。実際、入学後のクラスメイトはすべてアジア諸国の財務省や中央銀行などの公的セクターで働いている方々で、APPPは卒業生の方々も含め人的ネットワークが築けていると感じます。

1年次には、マクロ経済やミクロ経

済、計量経済など経済学を中心に基礎から学ぶことができました。すべての講義が英語で行われるプログラムであるため、外部講師としていらっしゃるIMFなど最前線で働く方々のお話を伺う機会も得ることができ、とても充実した時間を過ごすことができます。

また、このプログラムで出会ったクラスメイトとは、いずれ国際会議などで顔を合わせ、一緒に仕事をする可能性もあるため、プライベートでも旅行に出かけるなどして交流を深めています。現在は新型コロナウイルスの影響もあり、対面で会うことが難しくなっていますが、気軽にオンラインのグループで連絡を取ることができるため、お互い楽しくコミュニケーションをとることができています。公共政策や経済学を学ぶだけでなく、将来のキャリアアップに繋がる様々な経験が積めることもIPPの魅力の1つだと思います。

アジア公共政策プログラム (APPP)
社会人2年コース・2019年度入学

大崎 一陽さん

**国際色豊かな少人数教育だから
一人ひとりが真のプロフェッショナルになれる。**



政策のプロをめざしてみませんか？

一橋大学 国際・公共政策大学院
<https://www.ipp.hit-u.ac.jp>